

令和6年度を始期とする分野別計画の取組概要

(施策領域：健康、医療・介護、地域共生社会)

- ～ 自己実現に向かおうとする気持ちを支える
県民の「生活の質（QOL：Quality Of Life）」の
向上を目指して ～

令和6年3月
広島県健康福祉局

QOLの向上を目指す背景

- 本県では、人口減少・少子高齢化などの環境変化や頻発する大規模災害など、将来に対する先行きの不透明感が増す中でも、県民誰もがそれぞれ抱く夢や希望をあきらめることなく追及できる充実した生活を送ることができるよう、県の総合計画(ビジョン)で掲げる「将来にわたって、広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと心から思える広島県」の実現にあたり目指すこととしている県民の「欲張りなライフスタイル」の実現に向けて、各種施策を展開しています。
- 欲張りなライフスタイルの実現にあたっては、県民が長く日々の健康と自立を保ち、医療や介護が必要になっても、自らが希望する場所や暮らし方で安心して生活を続けられることが大切であることから、健康福祉局では、そのための基盤となる県民の「生活の質(QOL: Quality Of Life)」の向上を図るため、各種施策を関連する分野別計画に位置付け、取組内容の評価・見直しを行いながら実施しています。

◆「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン(計画期間：令和3年度～12年度)」における県民の「欲張りなライフスタイル」の実現に向けた取組の考え方



県民一人一人の夢や希望の実現に向けた「挑戦」を後押し

県民の「誇り」につながる強みを伸ばす

県民が抱く不安を軽減し「安心」につなげる

- 「欲張りなライフスタイル」の実現にあたっては、まずは県民一人一人が抱く日常生活や将来への様々な不安を軽減し、安心につなげることが大切です。

※ 様々な不安・・・自身の健康課題、家族の福祉課題(介護・看護) など

- 年齢や疾病・障害等の有無に関わらず、県民の皆様がそれぞれ抱く夢や希望をあきらめることがないよう、健康福祉局においては「QOLの向上」に向けた各種施策を展開し、県民の皆様の「欲張りなライフスタイル」の実現を応援します。

※ QOLとは：一般的には生活者の満足感・安心感・幸福感を規定している諸要因となる質を指す。生活を質と捉え、安全で安心して快適に生活できることを重視した考え方

QOLの向上に向けた、これまでの取組状況

- これまで健康福祉局では、平成30(2018)年を始期とする健康、医療・介護に関する基本的な計画を、団塊の世代が全て75歳以上になり高齢者が急増する令和7(2025)年に備えるための計画として位置付け、「病気や加齢による自立度の低下をどのように防ぎ、先送りするのか」を共通のテーマとして、QOLの向上に向けた取組を進めてきました。
- これまでの取組により、県民の主観的な健康観である「健康寿命(健康上の問題により日常生活に制限のない期間の平均)」が男女ともに延伸しているなど、様々な成果や変化が着実に表れていますが、女性の健康寿命が依然全国平均を下回っており、全国平均との差も大きいことから、QOLの向上を図るために、これまでの取組の評価・検証や今後見込まれる環境変化を踏まえて、より効果的な取組を実施していく必要があります。

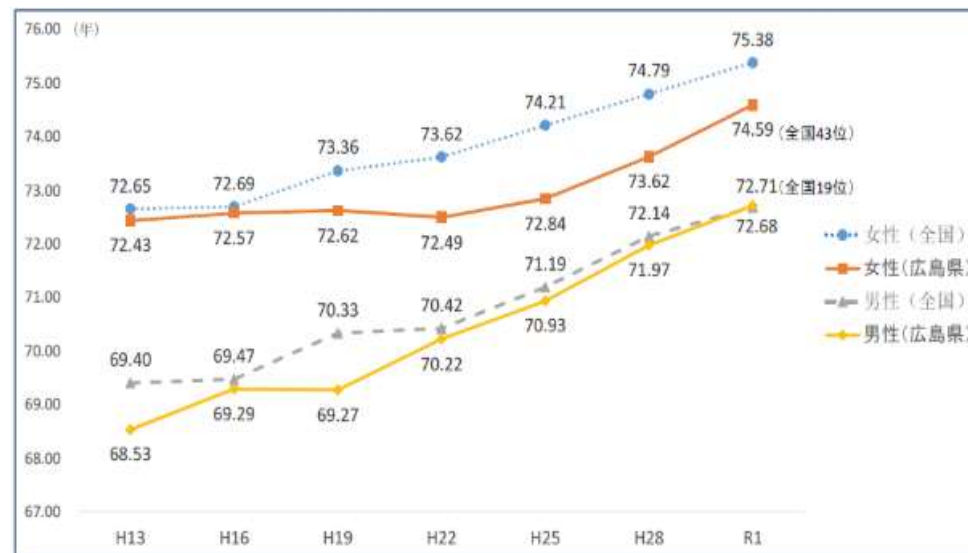
◆「健康寿命の伸び」と「平均寿命の伸び」の比較

⇒ 男女ともに、健康寿命の伸びは、平均寿命の伸びを上回っている。

| | | 男性 | | | 女性 | | |
|-------------|----|-------|-------|------|-------|-------|------|
| | | 平成22年 | 令和元年 | 伸び | 平成22年 | 令和元年 | 伸び |
| 健康寿命 (年) | 広島 | 70.22 | 72.71 | 2.49 | 72.49 | 74.59 | 2.10 |
| | 全国 | 70.42 | 72.68 | 2.26 | 73.62 | 75.38 | 1.76 |
| | | 平成22年 | 令和2年 | 伸び | 平成22年 | 令和2年 | 伸び |
| 平均寿命 (年) | 広島 | 79.91 | 81.95 | 2.04 | 86.94 | 88.16 | 1.22 |
| | 全国 | 79.59 | 81.49 | 1.90 | 86.35 | 87.60 | 1.25 |

◆健康寿命の推移（男女別・全国平均との比較）

⇒ 男女ともに延伸しており、男性は令和元年に全国平均を上回っている。

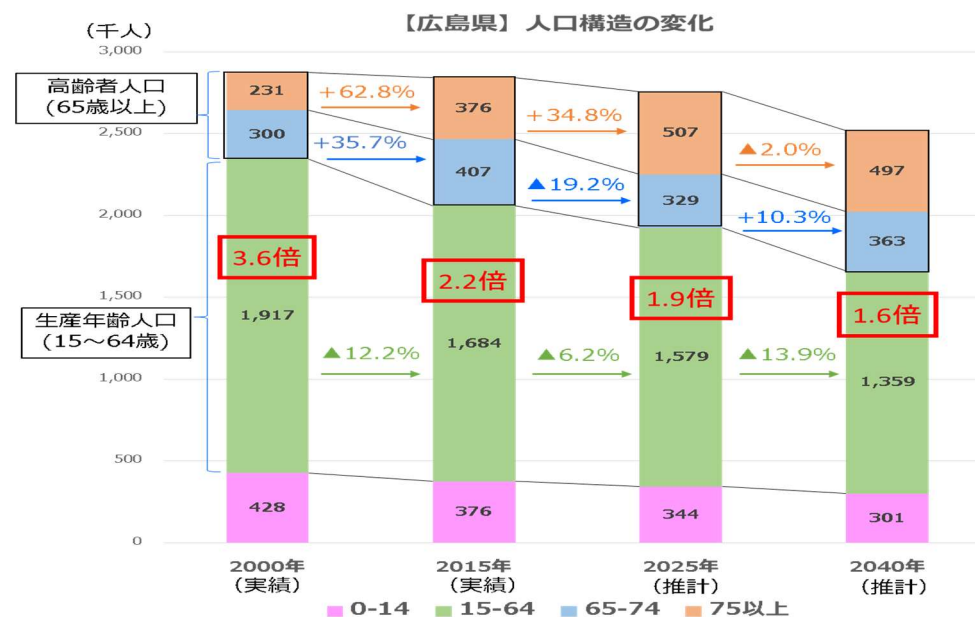
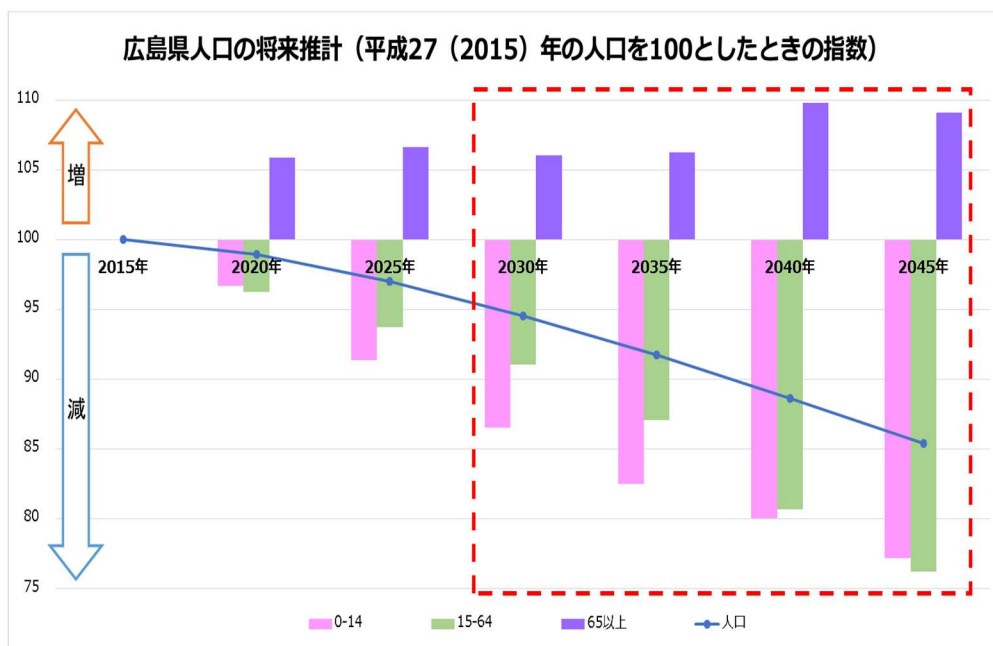


今後見込まれる環境変化

- 令和22(2040)年頃には、いわゆる団塊ジュニア世代が高齢者となり、高齢者人口がピークを迎えるとともに、要介護認定率や認知症割合が高くなる85歳以上の高齢者など、いわゆる「見守り、気に掛ける」必要がある人・世帯が増加していく一方、それらの人・世帯を支える生産年齢人口は減少し、地域のセーフティネットが機能しづらくなることが見込まれています。
- そうした中、新型コロナの感染拡大に伴い、地域社会との繋がりが一層希薄化していることから、様々な生活課題(健康課題、福祉課題等)を抱えた人・世帯が発見されず、具体的な支援につながらないリスクが増大し、県民が日々の健康と自立を保ち、医療や介護が必要になっても安心して生活することが困難となるおそれがあります。

◆ 本県の将来人口推計 (左図)、及び今後見込まれる人口構造の変化 (右図) ※「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」より作成

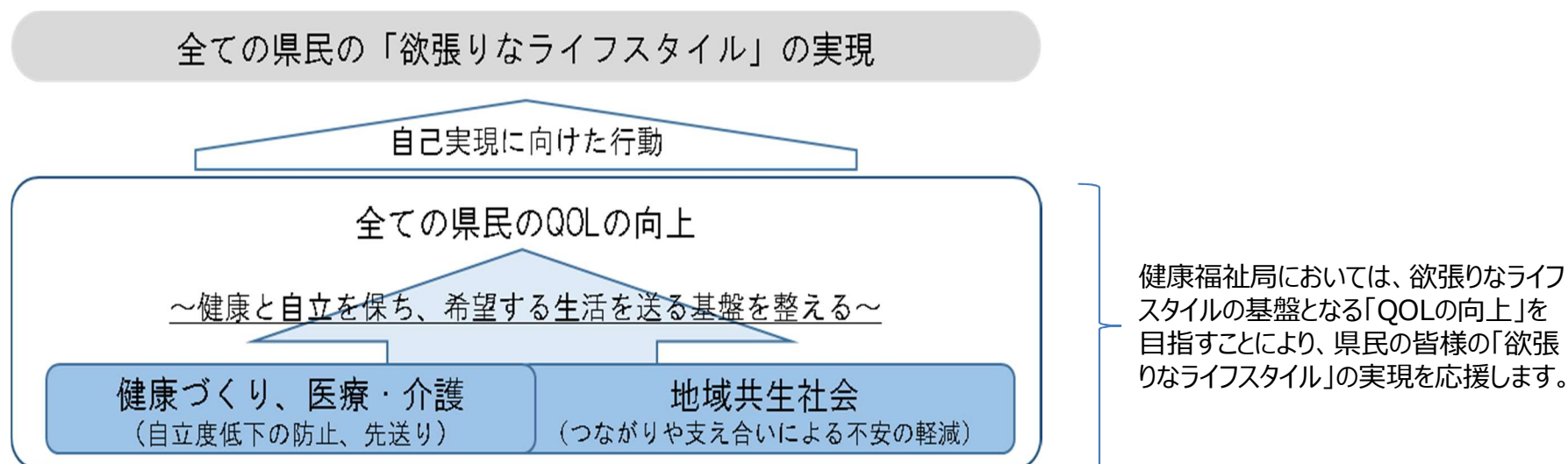
⇒ 高齢者人口が2040年にピークを迎える一方、生産年齢人口は減少し(左図)、高齢者人口に対する生産年齢人口の比率も低下(右図の赤枠部分)。



令和6年度を始期とする分野別計画策定における、QOLの向上に向けた取組の考え方

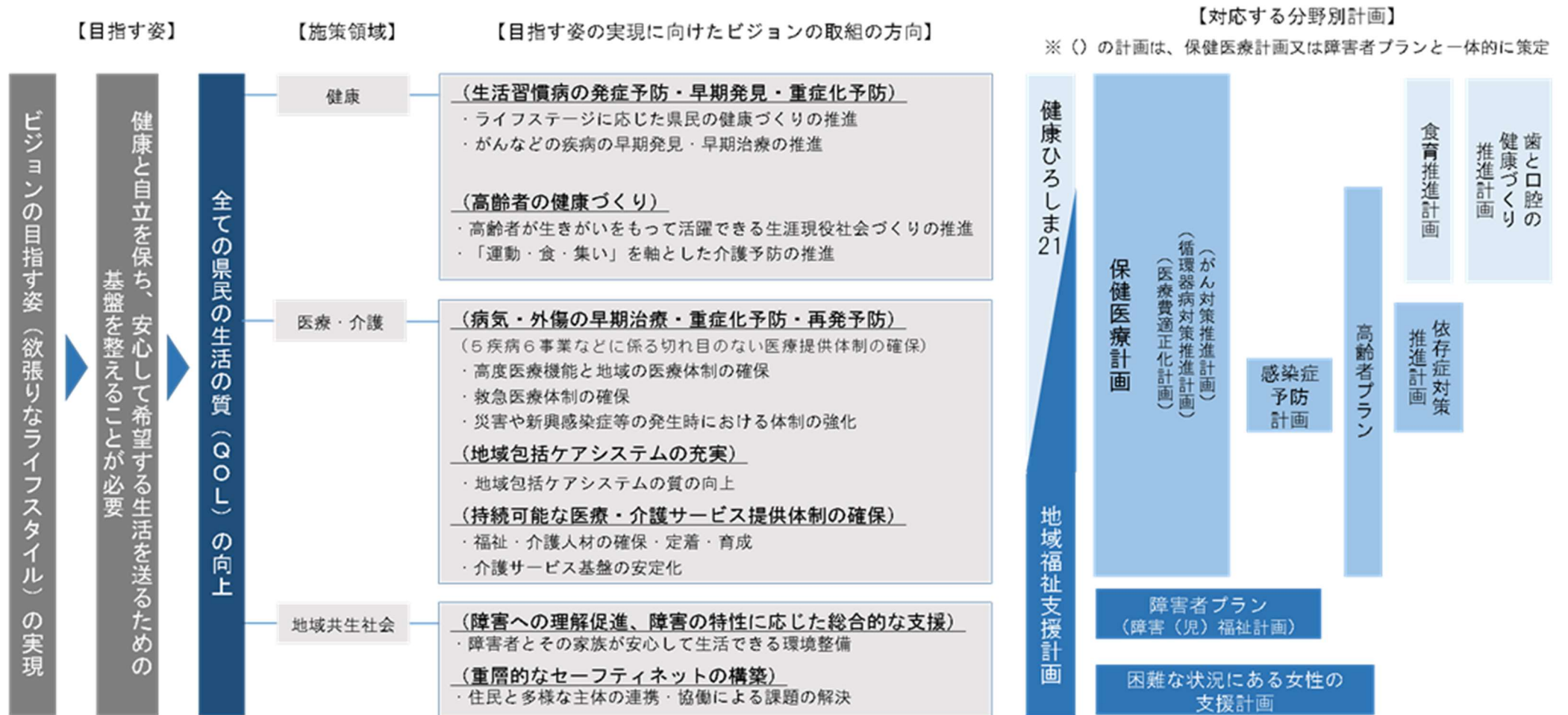
- 先行きの不透明感が増す中、現在の生活や将来に対する様々な不安を抱えていても、県民の皆様が、それぞれ抱く夢や希望をあきらめることなく追及できる充実した生活を送ることができるよう、そのための基盤となるQOLの向上に向けて、県民の「健康寿命の延伸」及び「不安の軽減」を目指して取り組みます。
- 健康と自立をできるだけ保つため、ビジョンに掲げる生活習慣病の発症予防・早期発見、病気・外傷の早期治療・重症化予防・再発予防等に取り組むとともに、自立度が低下した後も安心して希望する生活を送れるよう、地域包括ケアシステムの充実や重層的なセーフティネットの構築等に取り組むこととし、それぞれの計画に目指す姿と目標、取組の方向性などを掲げています。
- こうした取組により、健康と自立をできるだけ保ち、安心して希望する生活を送るための基盤を整えることで、県民の皆様の「欲張りなライフスタイル」の実現を応援します。

◆「QOLの向上」に向けた、健康福祉局における取組の考え方（イメージ図） ※健康、医療・介護、地域共生社会ごとの主な取組は次ページ参照



令和6年度を始期とする分野別計画策定における、QOLの向上に向けた取組の全体像

- 各施策領域において、ビジョンで位置づけた取組の方向ごとに、これまでの取組の振り返りを踏まえて課題を整理するとともに、令和6(2024)年度を始期とする分野別計画に課題解決策を位置付け、実施することにより、更なるQOLの向上を目指します。





(参考)健康福祉局で策定している分野別計画の掲載場所

トップページ > 健康福祉局 > 健康福祉総務課 > 健康福祉局の分野別計画 ~ 県民誰もが、より健やかに、安心して、生きがいを持ちながら、自分らしく暮らし続けられる社会の実現に向けて~

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/50/kenkou-keikaku.html>